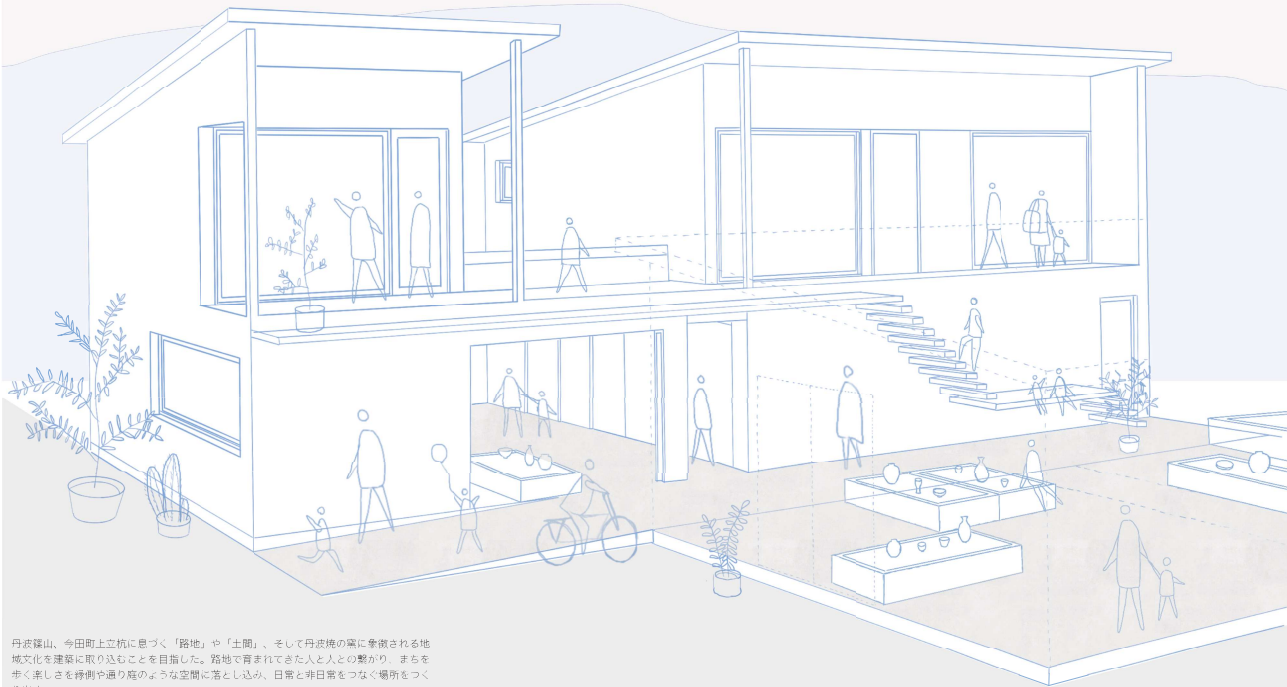
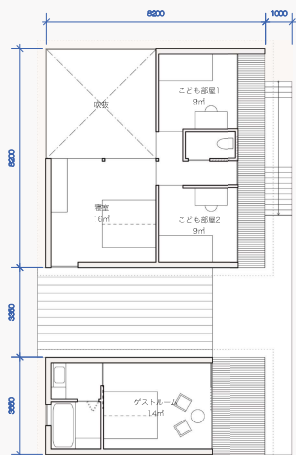


ろじ 路時～重なる時、繋がる路～

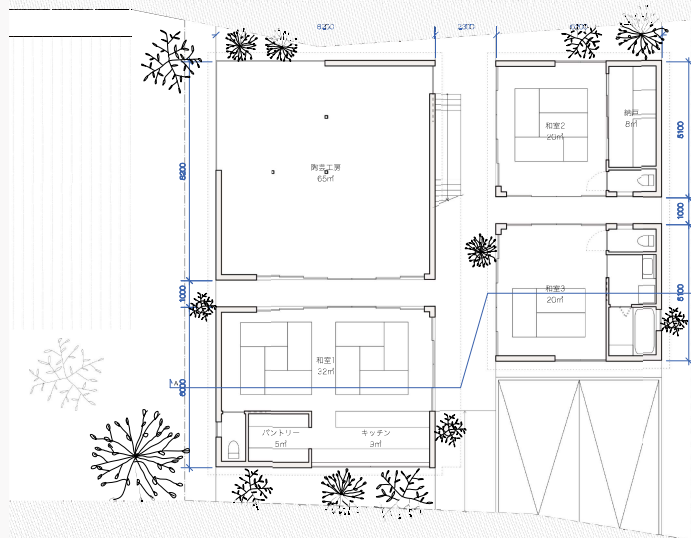


丹波篠山、今田町上立杭に息づく「路地」や「土間」、そして丹波焼の窯に象徴される地域文化を建築に取り込むことを目指した。路地で育まれてきた人と人との繋がり、まちを歩く楽しさを体験や通り庭のような空間に落とし込み、日常と非日常をつなぐ場所をつくり出す。

内部には可動式の畳を設け、日常は家族が多用途に使える小さなプライベート空間として機能し、1年に1度の陶芸祭りや地域の行事の際には畳を並べ変えて展示や交流の場へと変化させる。可変する畳の仕組により、親密な生活空間と誰もが集える大きな空間がひとつに共存し、丹波の地域性と現代の暮らしを結びつける建築を提案する。



2階平面図 S=1/100



1階平面図 S=1/100

1. 丹波焼の里・丹波篠山市今田町上立杭

丹波篠山市今田町上立杭は、丹波焼の窯元が立ち並ぶ歴史あるまちで、人々の暮らしと陶芸文化が深く結びついている。山あいの自然に囲まれた集落には窯や工場の点在し、職人たちは日々の生活とともに土をこね、器を焼き続けてきた。斜面にさまざまな向きに屋根が重なる景観は大変美しく、県の「景観ビューポイント」の選にも数えられている。訪れる人々は職人との会話を手に取る体験を通して、まち全体がひとつの「生活の展示場」であることを感じる。伝統と日常が重なり合う寂れで豊かな空間が広がっている。

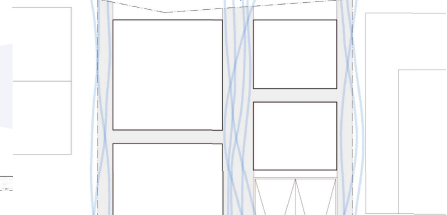


2. 丹波の風景を取り込むボリューム構成



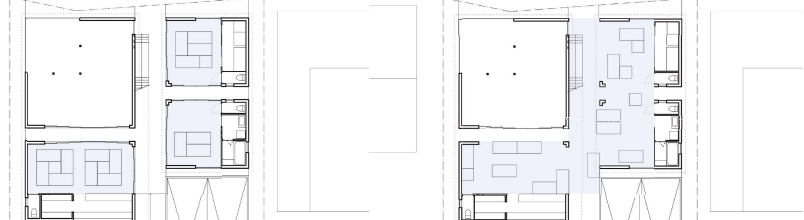
片側のボリュームを低く作り、車側で景色が開けた場所にゲストハウスの客室と家族の寝室を配置した。朝は自然光で目覚めることができ、丹波の豊かな四季折々の風景を見下ろすことができる。

3. 街の続きのような路地空間



この地域に多く見られる路地を建物に取り込んだ。路地の続きのようなアプローチは訪れる人を自然に誘い、建物は街の一角になる。南北方向の路地からはこの地域特有の夏の涼しい風が建物全体を通り抜ける。人が集い、暮らしの良き空間が生まれる。

4. 用途に応じてカタチを変える和室



客室は家族のリビングやグリーニングといった憩いやゲストハウスの宿泊客や窯元のスタッフの休憩スペースなどとして和室は機能する。畳は可動式で道具は取り外すことができ、季節や天候などに応じて半壁外のように使うこともできる。

親族や友人の訪問、陶芸作品の展示や販売を行う際は建具を全て取り払い、畳を自由に配置することで一つの大きな空間にすることができる。可動式の畳は障子や襖だけでなく、作品を置いて並べるために利用することもできる。



A-A断面図 S=1/100